

# 地域再生における ソーシャル・キャピタルの役割

社会保障・人口問題研究所 厚生政策セミナー

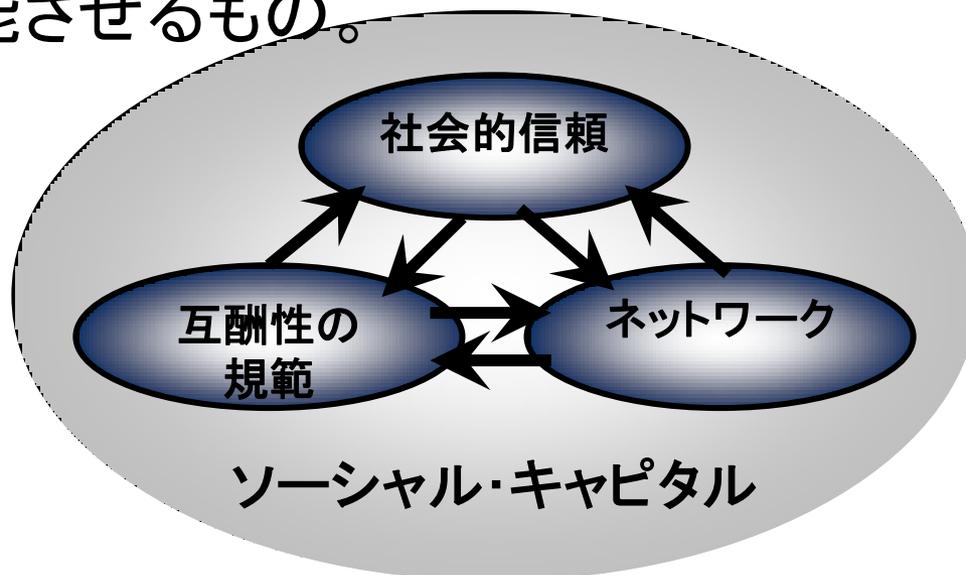
2012年10月22日

山内直人(大阪大学)

# 人と人のつながりは地域の資産

## つながりの「質」を表わすソーシャル・キャピタル

「ネットワーク(人脈)」「互酬規範(助け合い)」「信頼」といった社会組織の特徴で、人々の協力関係を促進し、社会を円滑に機能させるもの。



# SCの要素としての「信頼」

- 一般的信頼：自分と特定の関係にない他者一般に対する信頼、他人に騙されないという確信
- 測定法：「あなたは一般的に他人を信頼することができますか？ それとも用心するに越したことはないと思いますか」という質問に対する回答傾向をみる

# 信頼の重要性

- 信頼がないと・・・中古車市場の問題
  - 買い手は、売り手しか知らない事故車を売りつけられるかもしれない
- 信頼があると・・・経済取引を進めやすい
  - 取引相手に騙されないという安心があれば、厳密な契約なしでも取引を始められる
- 紛争を解決しやすい
  - 紛争になっても信頼があると早期解決できる

# 互酬性の規範

- 要するに、「相互扶助」、「お互い様」、「ギブアンドテイク」ということ
- 伝統的農村社会では普通であった、冠婚葬祭や田植え・収穫の時の助け合い
- ゆい、講、無尽・・・などの相互扶助の仕組み
- 互酬が成立するためには、コミュニティのなかの信頼関係が前提

# ネットワーク

- 人と人とのつながり、きずな、人脈
- スモールワールド理論
- 全くの他人であっても、両者は、数人を媒介すればつながっている？
- 行政と産業、文系と理系など異なるグループにネットワークを持ち、橋渡しできるキーパーソンが重要な役割

# SCが豊かなコミュニティとは

- 住民同士の交流・つきあいが濃密
- 相互扶助、助け合いの習慣(互酬)が定着
- 住民間の信頼関係の構築
- 交流・互酬・信頼の好循環で相互に高め合う
- 多くの住民が、地域の問題を自分たちで解決してよりよい地域にしようと自発的に考えて、日々努力している

# SCの効果：安全・安心

- SCが豊かなところは、犯罪率が低い
- 近所づきあいが濃密なら、よそ者が入ってきても気づきやすい
- 「割窓理論」：落書き、割れ窓など放置する地域は、犯罪の温床になりやすい
- 豊かなSCは、防災・災害復興にも効果を発揮
- 防災訓練、近隣による救助、災害の伝承など

# SCの効果：経済・起業・雇用

- SCが豊かな社会では、信頼関係を築きやすく、取引コストを抑えられる
- 起業がしやすく、成功すれば経済成長を促し、失業率も低く抑えられる。
- データでも、SCの高い地域は、新規開業率が高く、失業率が低い

# SCの効果：健康・医療・福祉

- SCが豊かな社会では健康度が高い
- 健康であることは幸福度を高める
- 人付き合いが活発、濃密であれば、健康にプラス
- 健康増進活動を住民同士で誘いあって継続する
- データでも、SCが豊かだと平均余命が長く、出生率が高い

# SCとITネットワーク

- 情報通信技術、インターネットの発達は、SCを豊かにする
- 地域を超えて、オンライン上のコミュニティが形成される
- ただし、人間的付き合いなしのオンライン・ネットワークだけではSCを築けない
- ネットに夢中になると、オフラインの付き合いがおろそかになる面も
- ネット上での中傷など、ダークサイドも

# 事例1: いわきの地域再生

- 南東北・福島県いわき市
- 1966年市町村合併で誕生
- 現在人口33万人
- 炭鉱町から  
温泉リゾートへ
- 映画「フラガール」  
の世界

# 成功のカギ：キーパーソン

- 常磐炭礦（後に常磐興産）株式会社社長・中村豊（1902-1987）のリーダーシップ
- 1万5千の社員と7万人の地域コミュニティ
- エネルギー転換と炭鉱の斜陽
- 炭鉱閉山後の地域再生のアイデア
- 今風に言うと「社会起業家」
- 1966年、常磐ハワイアンセンターを創業

# 成功のカギ:ユニークなアイデア

- 温泉の有効利用(石炭1トンに40トンの温泉)
- 地元でフラダンサーを養成
- 大衆リゾートに徹する  
ダサイ、アカ抜けないが、安心して遊べる
- 一貫性がないのがよい?  
cf. TDL、USJ、ハウステンボス

# 成功のカギ：信頼と共生

- 経営陣と従業員の信頼関係
- 炭鉱労働者と家族のために雇用を創出
- フラダンサーも地元で養成
- 地元旅館との共存共栄
- 食材や土産品の地元調達
- 本社を東京からいわき市に移転
- 地元密着「CSR」のさきがけ

# 東日本大震災で危機の再来

- 3. 11で営業中止
- 地震、津波、原発事故、風評被害の4重苦
- 福島第二原発から直線20キロ
- フラダンサーは、全国キャラバンへ
- 2011年10月部分開業、2012年2月全面再開
- あわせて新ホテルも開業
- 常磐興産社長・斎藤一彦のリーダーシップ

## 事例2：富良野市の地域振興とSC

- 富良野市：人口2万余の小都市
- 札幌から2時間以上、雪国のハンディ
- 高い観光集客力
- ウィンタースポーツのメッカ
- オーストラリア等からの長期滞在観光客

# 成功のカギ：やはりキーパーソン

- 脚本家・演出家・倉本聰の求心力、人脈
- 1981年、TVドラマ「北の国から」放映開始
- 東京から移り住む
- 若手俳優・脚本家養成のため「富良野塾」創設
- 富良野自然塾創設：プリンスゴルフ場跡に植林

# 富良野演劇工場について

- 2000年11月こけら落とし
- 運営団体ふらの演劇工房はNPO法人認証第1号
- 座席数300、出演者と観客の一体感
- 非常に凝った舞台演出が可能
- 富良野の誇り: 多くの地元ボランティアが参加
- 東京の役者にとってもあこがれ(倉本の影響力)
- 採算ライン以上の稼働率を維持

# 事例3: 釜石の奇跡

- 釜石東中学校の生徒が、隣接する小学校児童を引率して高台避難、津波の犠牲者なし、市内の他の小中学校でも被害は最小限
- 釜石市教委、2005年から群馬大・片田教授らとともに防災教育に取り組み、市内の小中学校は、日頃から大津波を想定した避難訓練や防災授業を実施
- 「釜石の奇跡」は奇跡にあらず、日頃の訓練の成果

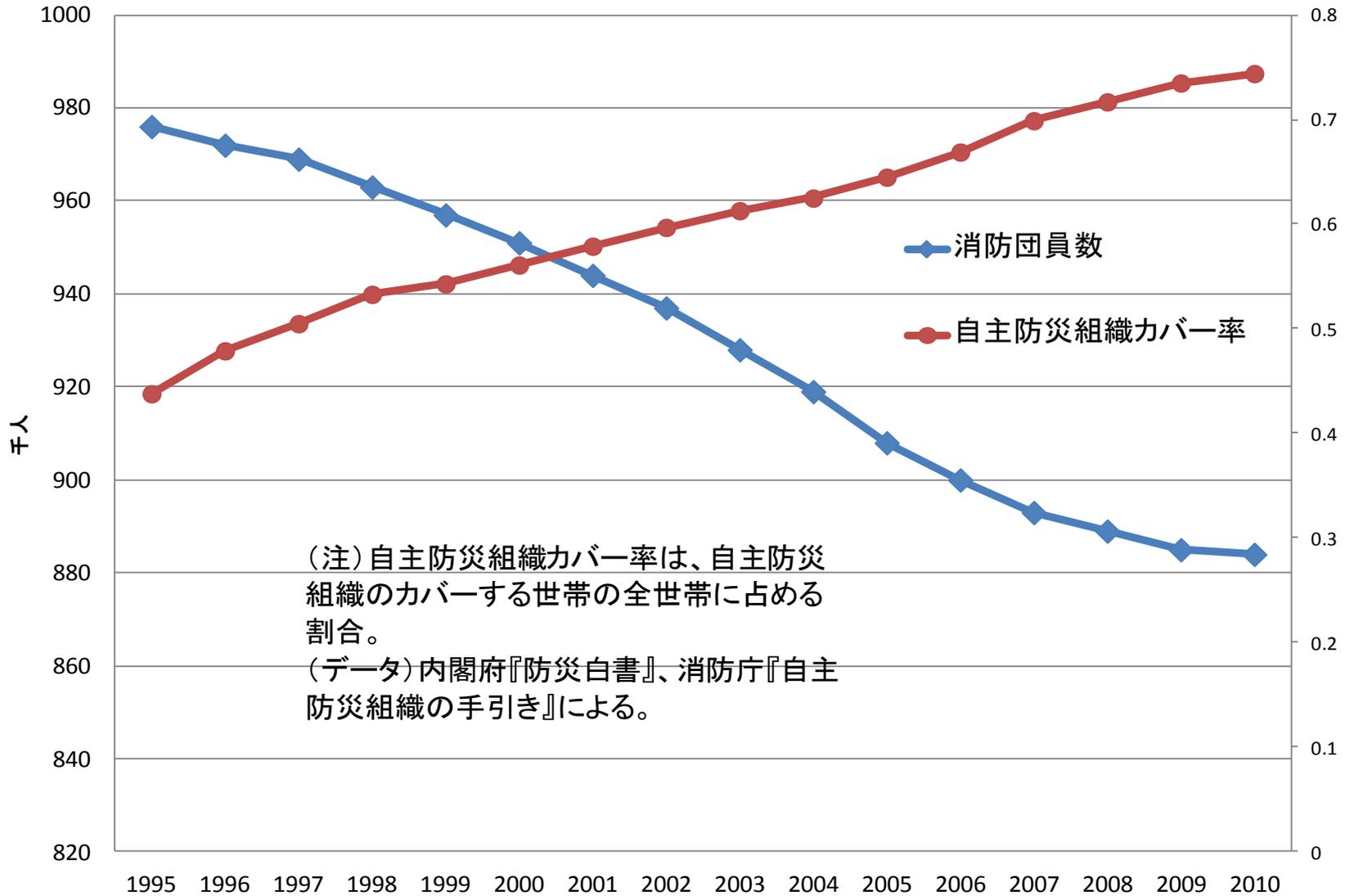
釜石の軌跡：中学生が小学生を誘導しながら逃げた



# SCは防災・復興にも重要な役割

- 隣近所との日常的な付き合いの重要性
- 阪神大震災、9割は隣人に助け出される
- 信頼関係とネットワークの醸成
- 地縁組織（自治会・町内会など）の役割
- 災害時の消防団、自主防災組織の役割
- 災害復興におけるNPO・ボランティアの役割
- 復興過程でSCを破壊しない配慮が必要

## 消防団員数と自主防災組織カバー率の推移



# 仮設住宅のレイアウトにも工夫が必要



# まちづくりには何が必要か

- 都市規模、人口集積 ⇒ 不可欠ではない
- 「コンパクトシティ」、「中山間地」でも工夫次第
- キーパーソン、仕掛け人、社会起業家  
⇒ 絶対必要
- ユニークなアイデア、着想 ⇒ とても大事
- 住民間の信頼 ⇒ とても重要
- 資金 ⇒ あるに越したことはない

# 地域の問題解決力とは

- 危機、問題の発生に気づき、正しく認識する
- コミュニティで問題を共有する
- 解決のリーダーシップを発揮する
- 住民、企業、行政など異なる主体が協力する
- 解決に向けたアイデアを出す
- アイデアを具体化し、実行に移す
- 施策を評価し、見直す

# コミュニティの課題解決のプロセス

課題の多様化・専門化に対応し、地域外のノウハウが投入される



*Plan*

*Do*

*See*

活動にあたり地域外のノウハウや人材が地域に投入される

# SCとNPO・市民活動の相互関係

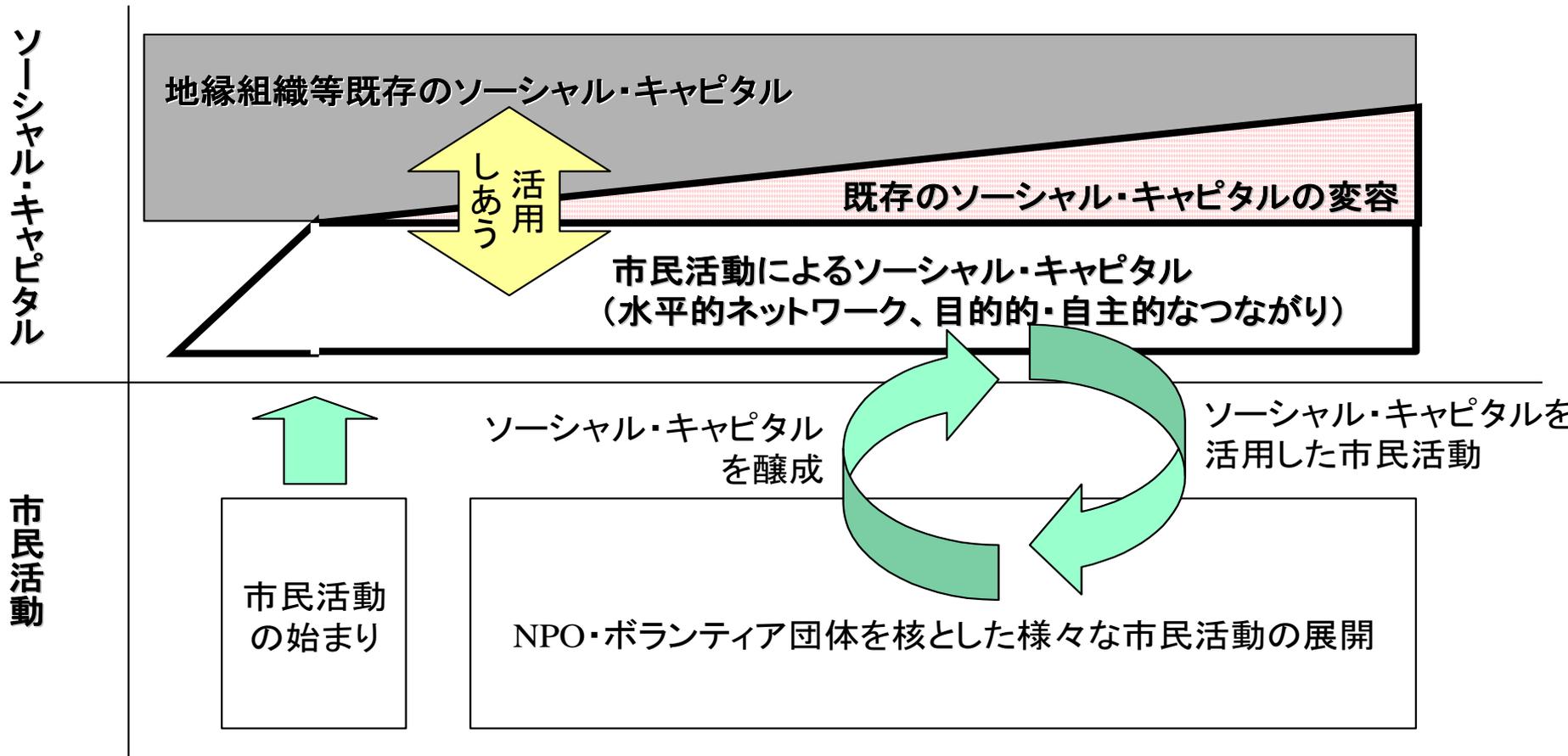
ポジティブ・フィードバック  
な関係

●市民活動の活性化を通じて、SCが培養される可能性がある

●SCが豊かならば、市民活動への参加が促進される可能性がある

SCの各要素と市民活動量とは正の相関関係にある

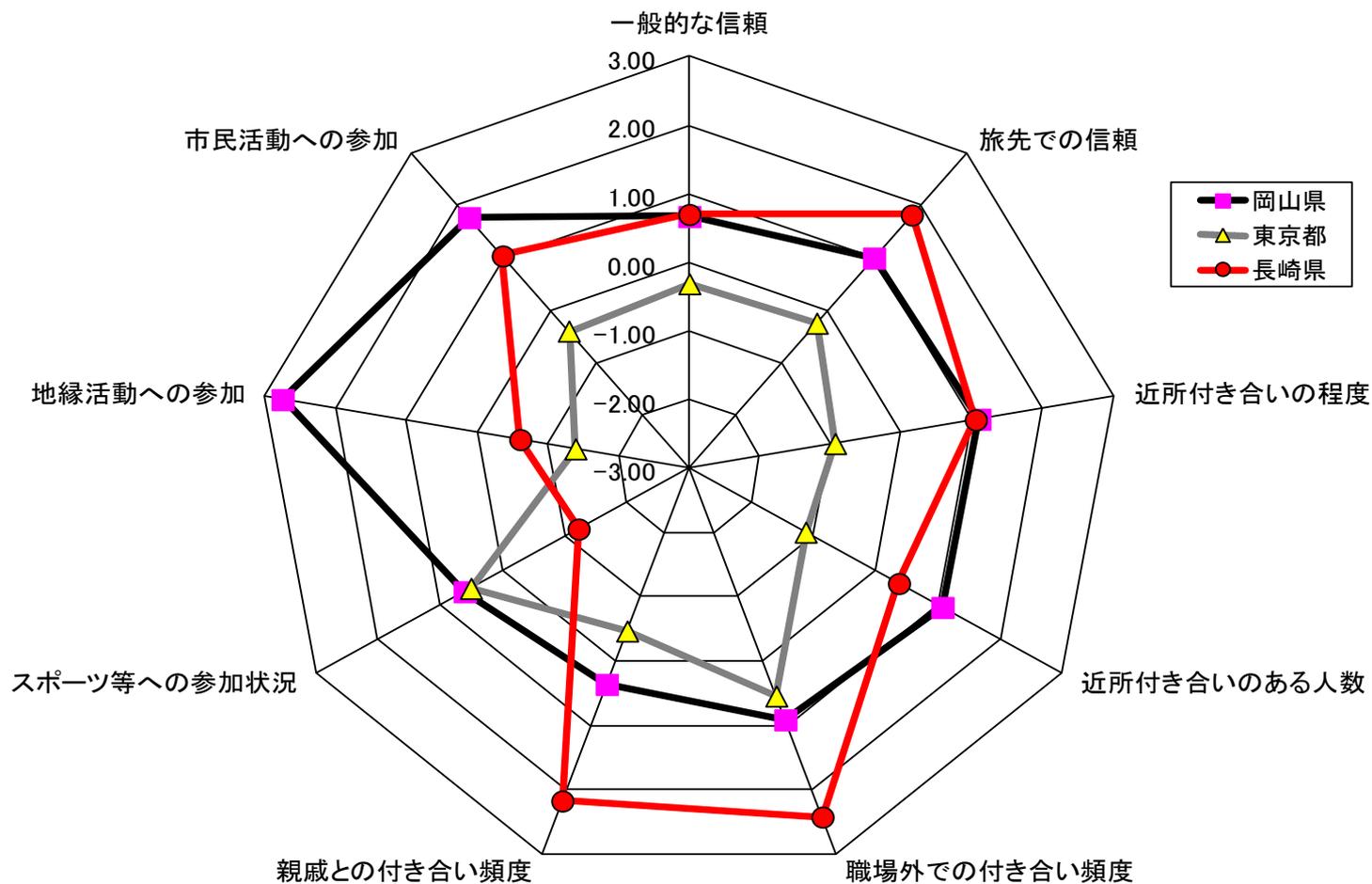
# SCとNPO・市民活動の相互メカニズム



# SC指標で地域特性を知る

- 信頼指数: ①一般的な信頼 ②旅先での信頼
- つきあい指数: ③近所づきあいの程度  
④近所づきあいのある人の数 ⑤友人知人との学校・職場外でのつきあいの頻度  
⑥親戚とのつきあいの頻度 ⑦スポーツ・趣味・娯楽活動への参加
- 社会参加指数: ⑧地縁的な活動への参加状況  
⑨ボランティア・NPO・市民活動への参加状況

# 地域特性の比較



# 地域再生の効果的実践のために

- 地域特性(強み、弱み)を知り、地域の「カルテ」を作成して、地域再生戦略を考える
- キーパーソン、社会起業家を育て、個性的なアイデアを持ち寄り、実行に移す
- 住民間、行政や企業との信頼を育み、ネットワーク、人脈を広げる